

「令和4年度 第2回高知県教科用図書選定審議会」

開催日時：令和4年6月3日（金） 13：30～16：00

開催場所：ちより街テラス 3階 ちよテラホール

出席者：

（委員）

石山貴章会長、国見佳延副会長、益永美佳委員、小川真悟委員、切詰美穂委員
正岡佳代委員、安東恵美委員、松田真一委員、百田貴昌委員、入野博委員、鎌倉仁委員
竹内信人委員、山中浩介委員、久寿久美子委員、久保良高委員、野村幸代委員
和田具子委員、仲村貴介委員

※欠席委員 藤岡孝雄委員、鍵山絹江委員

（事務局）

特別支援教育課：濱田課長、板橋課長補佐、谷澤チーフ、平地指導主事、吉井指導主事、
池指導主事、光森指導主事

小中学校課：黒瀬次長、今城課長、井上課長補佐、池畠チーフ、山崎指導主事

1. 開会

会議冒頭に事務局より会議を非公開とする提案があり、承認された。

（非公開とする理由・・・審議会等の会議の公開に関する指針、3 公開基準（2））

2. 高知県教科用図書選定審議会 会長挨拶

3. 選定資料案の報告、質疑、審議

●総括

・（一般図書）調査員11名。調査対象10冊。本県においては、従前から選定審議会において調査審議を積み重ねていた一般図書が点字図書と併せて574冊。今回の10冊を加えると、584冊となる。

●一般図書

・選定資料には、図書名、発行者、著作名等、図書の大きさ、ページ数、定価を記載している。

・想定される使用例（教科・段階等）について説明。知的障害特別支援学校の各教科は、小学部は国語、算数、生活、音楽、図画工作、体育の6教科。中学部は、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、職業・家庭の8教科で構成されている。小学部は3つの段階、中学部は2つの段階により目標及び内容を示している。小中学校と異なり、学年ではなく、段階別に内容を示すのは、発達期における知的機能の障

害が、同一学年であっても、個人差が大きく、学力や学習状況も異なっているため、段階を設けて示すことにより、個々の児童生徒の実態等に即して、各教科の内容を精選して、効果的な指導ができるようにしている。

今回、示した各学部の段階については、専門調査員の調査の中からの使用例であり、この限りではない。児童生徒の実態や教員の工夫により、様々な教科に対応ができる。

・ 10冊の調査内容について説明。

●質疑及び審議

(委員) 想定される使用例に記載されている教科以外でも使用は可能か。

(事務局) 今回記載した使用例については、専門調査員の調査の中からの使用例であり、児童生徒の実態や教員の工夫により、様々な教科に対応ができる。

(委員) 教科の視点が入り、わかりやすくなっていた。またSDGsの視点を取り入れた点も良かった。学習指導要領が改訂になり、知的障害でも、教科を重視した指導が重要になってきている。これまでの理科や社会は、図鑑や地図の取扱が多かったので、理科や社会に視点をおいた図書を探してほしい。

(事務局) 意見をもとに、調査方法等も検討していく。

(会長) 選定資料案については、事務局提案内容でよろしいか。

(委員全員) 承認。

4. 高知県教育委員会への答申

高知県教育委員会への答申について承認された後、会長より高知県教育委員会に答申を手交した。

5. 高知県教育委員会 挨拶

6. 閉会